

4種類目了承、武田薬品が国内製造へ

国内で使われる新型コロナワクチン

製品 (種類)	製造 場所	特徴
米ファイザー製 (mRNAワクチン)	海外	冷凍庫で保管、 使用前に解凍。 4回目接種でも 使用を想定
米モデルナ製 (mRNAワクチン)	海外	冷凍庫で保管、 使用前に解凍。 4回目接種でも 使用を想定
英アストラ ゼネカ製 (遺伝子組み換え) ワクチン	国内と 海外	冷蔵庫で保管。 原則として40歳 以上が対象。 1、2回目接種 で使用
米ノババックス製 (組み換えタンパク) ワクチン	国内	冷蔵庫で保管。 1、2回目接種と 3回目接種で の使用を想定

「海外製にはリスクがある。輸入が止められれば国内で使えるワクチンがなくなってしまう」。厚労省の幹部は、ノババックス製一億五千万回分の供給を受ける契約を昨年九月、武田薬品との間で締結した理由をこう説明する。

国内のコロナワクチンは、海外で生産されるファイザーやモデルナ製の輸入に頼っているのが実情だ。昨年は世界的にワクチンの獲得競争が過熱。ファイザーが工場を置く欧州連合(EU)が輸出規制をかけるという問題も発生した。英アストラゼネカ製も国内で生産されているが、副

「海外製にはリスクがある。輸入が止められれば国内で使えるワクチンがなくなってしまう」。厚労省の幹部は、ノババックス製一億五千万回分の供給を受ける契約を昨年九月、武田薬品との間で締結した理由をこう説明する。

国内のコロナワクチンは、海外で生産されるファイザーやモデルナ製の輸入に頼っているのが実情だ。昨年は世界的にワクチンの獲得競争が過熱。ファイザーが工場を置く欧州連合(EU)が輸出規制をかけるという問題も発生した。英アストラゼネカ製も国内で生産されているが、副

「生産能力を充実させること

で、他国への提供を考えていた」と語っていた。

ノババックス製は「組み換

◆選択肢

◆5月開始

国内では早ければ五月中にも接種が始まる見込み。一、二回目の接種や、三回目の追加接種で用いる見通しだ。

厚労省は各都道府県に、少なくとも一ヵ所の接種会場を設けるよう求めている。

一方、どのワクチンを選ぶかは個人の判断に委ねられる

おり、ノババックス製がどれだけ使われるかは見通せない。

自治体関係者は「既にモ

デルナ製でも人気がない。國

産ワクチンの重要性は理解しているが、需要があるかどうかは分からぬ」と述べ、接種

ワクチン、安定供給に期待

厚生労働省の専門部会は十八日、米バイオテクノロジト企業ノババックスが開発した新型コロナウイルスワクチンの承認を了承した。武田薬品工業が国内で製造するため安定供給が見込め、何らかの理由で既存のワクチンが打てなかつた人の選択肢が広がると期待される。ただ米ファイザー製など先行一種が浸透する中で、国内でどれだけ普及するかは不透明な部分もある。=●面参照

◆輸出規制

「海外製にはリスクがある。輸入が止められれば国内で使えるワクチンがなくなってしまう」。厚労省の幹部は、ノババックス製一億五千万回分の供給を受ける契約を昨年

反応の問題で接種対象が原則四十歳以上に限定されたことなどで、打つ人は少ない。

武田薬品はモデルナ製ワクチンの販売・流通も担ってい

たが、ノババックス製は光工

場(山口県光市)で生産から

担う。収益への貢献が大きく

なりそうだ。光工場の生産能

力は年一億五千万回分。政府

との契約を超える分は輸出に

回す可能性がある。武田薬品

は一月の投資家向け説明会で

「生産能力を充実させること

で、他国への提供を考えてい

きたい」と語っていた。

ノババックス製は「組み換

◆選択肢

◆5月開始

国内では早ければ五月中にも接種が始まると見込み。一、二回目の接種や、三回目の追加接種で用いる見通しだ。

厚労省は各都道府県に、少なくとも一ヵ所の接種会場を設けるよう求めている。

一方、どのワクチンを選ぶかは個人の判断に委ねられる

おり、ノババックス製がどれだけ使われるかは見通せない。

自治体関係者は「既にモ

デルナ製でも人気がない。國

産ワクチンの重要性は理解しているが、需要があるかどうかは分からぬ」と述べ、接種

えタンパクワクチン」と呼ばれるタイプで、B型肝炎ワクチンなどで実用化された実績のある技術を採用しているのも特徴だ。

ファイザー製やモデルナ製のような「メッセンジャーRNA(mRNA)ワクチン」と呼ばれるタイプは、ウイルスの遺伝物質を直接体内に投与するのに対し、ノババックス製は人工的にウイルスの一部を体外で作った後、注射することによって免疫をつける。

副反応などを理由に最新技術を使ったmRNAワクチンを選択してきた人には新たな選択肢になる可能性もある。ファイザー製などより冷藏保管が可能で、扱いやすい点も利点になる。

mRNAと違う仕組み、需要は不透明

国内では早ければ五月中にも接種が始まると見込み。一、二回目の接種や、三回目の追加接種で用いる見通しだ。厚労省は各都道府県に、少なくとも一ヵ所の接種会場を設けるよう求めている。

一方、どのワクチンを選ぶかは個人の判断に委ねられる

おり、ノババックス製がどれだけ使われるかは見通せない。

自治体関係者は「既にモ

デルナ製でも人気がない。國

産ワクチンの重要性は理解しているが、需要があるかどうかは分からぬ」と述べ、接種

展開の方法に懸念を示した。